

福知山市立 学校教育改革 推進プログラム



めざす子ども像

ふ るさとを愛する子

《郷土愛》 人や郷土の文化・伝統を大切にする子

く ふうする子

《創意工夫》 自ら課題を見付け、もっとよい方法はないかと工夫する子

ち えをみがく子

《探究心》 ものごとを深く考え、真理を追究する子

や さしさと思いやりのある子

《まごころ》 自分を大切にし、友達も大切にできる子

ま じめにがんばる元気な子

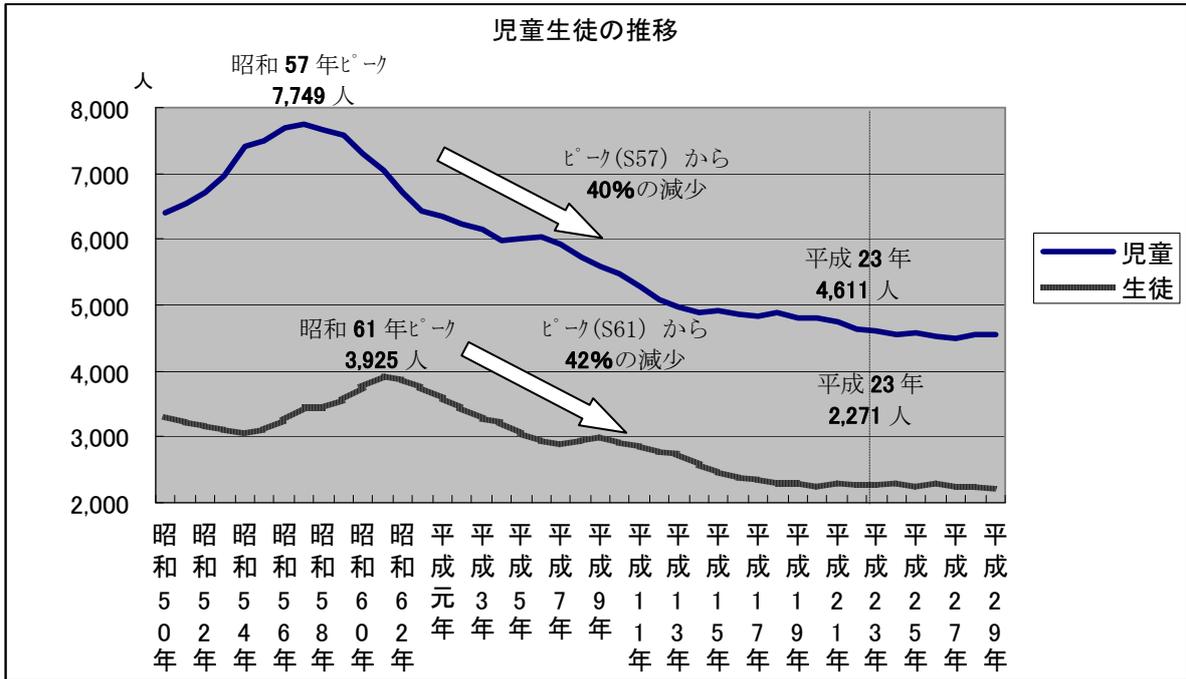
《向上心》 希望へ向けて努力し、すこやかに成長する子



平成 23 年度

福知山市教育委員会

1 少子化の状況



本市の児童生徒数は、小学校では昭和 57 年、中学校では昭和 61 年を第 2 次ピークに減少が続いています。平成 23 年 5 月 1 日現在では、児童数は 4,611 人、生徒数は 2,271 人となっており、第 2 次ピーク時に比べて児童数は約 60 パーセント、生徒数は 58 パーセントまで減少しています。

平成 23 年 5 月 1 日現在の住民基本台帳のデータにより学校ごとに見ると、市の周辺部の学校の多くが、今後激減または減少することが見込まれます。現在、100 人未満の学校は、小学校 15 校、中学校は 3 校ありますが、平成 29 年にはそれぞれ 16 校と 4 校に増え、人数もますます少なくなり、学校が小規模化する傾向にあります。さらには、複式学級のある過少規模校は、現在の 9 校から平成 29 年には 12 校に増えることが見込まれています。

平成23年5月1日現在住民基本台帳からの児童生徒推移(単位:人)

学校名	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
檀明小	539	534	549	552	556	576	581
昭和小	646	641	655	684	694	722	741
大正小	374	382	386	390	399	407	422
雀部小	550	534	541	529	535	558	542
庵我小	109	108	116	117	111	114	106
修斉小	430	425	419	396	397	388	385
遷喬小	277	282	274	296	295	298	328
天津小	41	37	41	40	37	36	38
上豊富小	131	129	113	106	100	95	97
上六人部小	52	55	54	45	44	39	33
中六人部小	30	30	33	33	32	28	30
下六人部小	407	379	391	379	382	376	377
上川口小	79	75	85	75	78	82	75
三岳小	30	26	23	24	19	18	17
金谷小	40	40	32	29	24	25	18
佐賀小	37	33	31	33	28	28	25
成仁小	369	374	380	367	356	348	322
菟原小	36	40	37	40	43	43	48
細見小	63	61	55	54	55	55	54
川合小	16	20	19	20	16	16	17
精華小	64	63	59	48	42	37	36
育英小	27	27	25	22	24	23	22
明正小	58	56	46	48	42	46	42
美河小	113	114	122	118	113	116	113
美鈴小	40	45	42	43	41	44	46
有仁小	53	50	46	39	45	43	45
計	4,611	4,560	4,574	4,527	4,508	4,561	4,560
児童数							
桃映中	281	273	260	275	273	295	283
南陵中	496	516	530	523	530	517	551
成和中	346	345	318	316	303	302	272
六人部中	231	255	238	253	226	241	224
川口中	89	74	59	72	76	78	77
日新中	527	562	582	606	586	577	603
三和中	88	74	77	71	66	56	44
夜久野中	87	88	81	81	79	74	68
大江中	126	117	112	109	110	104	97
計	2,271	2,304	2,257	2,306	2,249	2,244	2,219
生徒数							

は、複式学級が設置または設置が見込まれる学校。

2 学校教育を取り巻く状況

社会の状況

- 少子高齢社会の到来
- バブル崩壊後の経済状況
- 価値観の多様化
- グローバル化の進展
- 高度情報化

子どもたちの状況

- 進んで学んだり探究したりする意欲の低下
- よりよい人間関係を形成する力の低下
- 粘り強く物事に取り組む姿勢の不足
- 生活体験の不足と自尊感情の低下

子どもたちを取り巻く状況

- 核家族化
- 保護者の過保護・放任・子育て不安
- 子どもたちと地域の関わりの減少
- 経験豊富な教職員の大量退職

3 学校の小規模化による課題

小規模校は、年齢を超えたふれあいが深まり、個別指導など少人数を活かした教育を行いやすいといった良さがあり、学校ではこのメリットを活かした教育に努めています。しかし、人数が少なすぎることにより、学習指導要領に基づいた教育活動を行うとき制限が加わることがあったり、人間関係が固定化したりします。また、子ども同士の切磋琢磨や練り合い、深め合いといった「学び合う力」を身に付ける機会も少なくなります。学校教育は、教員が児童生徒をその発達段階に応じて「教える」場面と児童生徒がお互いに「学び合い、育ち合う」場面の二つで成り立っています。

学び合い育ち合う機会が制限される。

このことから、学校教育の実施には、一定の規模を確保することが望ましいと考えられます。

さらに、複式学級のある過少規模校では、指導上の困難性からその解消が望まれません。

—複式学級のある学校の指導上の課題—

- ① 単式学級になったり複式学級になったり、毎年の変動があるため学校体制が安定しにくい状況を生む
- ② 複式学級編制の学校では、合同学習や集合学習などの工夫が必要になる
- ③ 自学自習の時間を余儀なくされる
- ④ 効果は教員の指導力によるところが大きいという指摘があり、安定的な学習効果を維持できるかという点で課題は大きい

4 適正規模・適正配置の基本的な考え方

複式学級の解消

- ・複式学級のある学校を対象に適正規模・適正配置を進めます。
- ・各学年に単式学級を設置できる小学校6学級、中学校3学級以上を確保することを目指します。

学校規模確保における留意点

- ・国の学級編制の標準や府の少人数学級とは別に、教育効果発揮から20人程度の学級集団の確保を弾力的な目安とします。

適正配置の方法

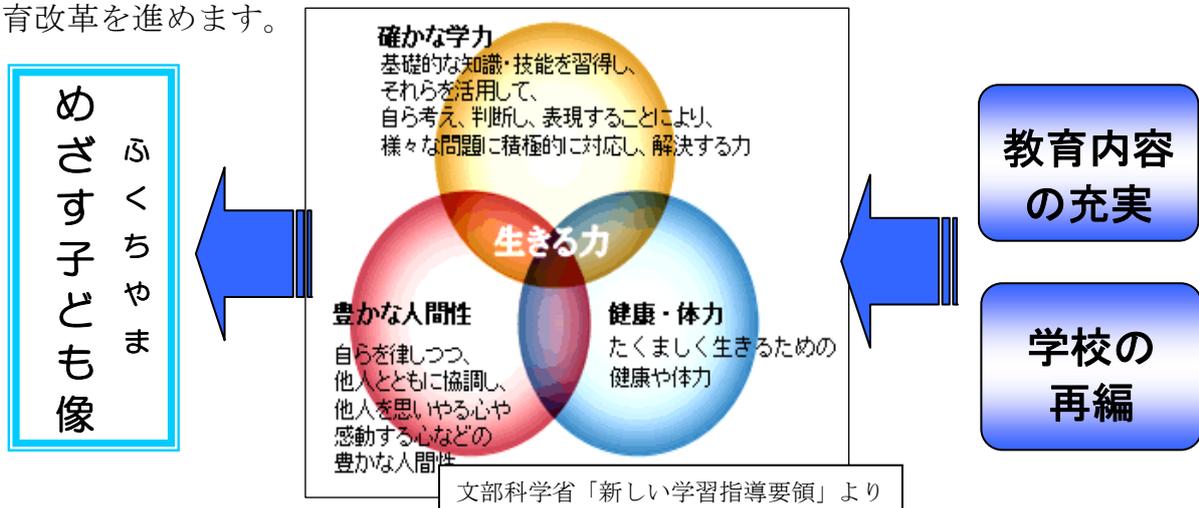
- ・適正規模を確保する具体的な方法は、学校の統廃合を基本にします。
- ・学校の統廃合は、保護者や地域住民の理解と協力を得て進めます。

5 通学区域のあり方

- ・住所（自治会）によって就学すべき学校を指定する通学区域制度を維持することを基本とします。

6 学校教育改革プログラム

子どもたちの成長にとって望ましい教育環境を実現するため、市立学校の適正規模・適正配置（学校の再編）を進めながら、子どもたちの知育・徳育・体育の充実と家庭・地域・学校が連携した新しい教育のありかた（教育内容の充実）を踏まえた教育改革を進めます。



教育内容の充実

学力の充実・向上

子どもたちにとって理解しやすく、興味や関心を持ち探究心を引き出す授業や指導などの一層の充実を図ります。また、家庭学習の習慣化を支援しつつ、新しい教育制度を積極的に研究・導入します。

〈施策〉【一人一人が大切にされる授業】【確かな学力を身に付ける取組】【新しい教育制度の導入(保幼小中一貫連携教育)】【家庭学習の習慣化の支援】

心身ともに健やかな子どもの育成

自然や異年齢との交流など体験的な学習を推進するとともに道徳性の育成を図ります。また、スポーツや文化のすばらしさを体験する機会の充実や食習慣を身に付けるための教育を推進します。

〈施策〉【好ましい人間関係、豊かな感性・社会性をはぐくみ、ふるさとを愛する態度の育成】【親子関係づくりと一人一人を大切にする人権教育の推進】【いじめの根絶や不登校の克服に向けた積極的な取組】【たくましく生きるための健康・体力づくり】【競技力の向上をめざすシステムの構築】

特別支援教育の推進

すべての子どもが自己肯定感を持って生き生きと学べる環境をつくるため、障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援します。

〈施策〉【生涯にわたる一貫した支援システムの構築】【通級指導教室の機能の充実】【特別支援連携チームによる学校(園)・保護者への巡回指導の充実】【特別支援教育推進体制の更なる整備と専門性の高い指導者の育成】

幼稚園教育の充実

家庭との連携を密にしながら、幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成し、小学校教育に向けて「学びの基礎」を育てる教育の充実を図ります。

〈施策〉【生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼稚園教育の充実】【発達障害のある幼児一人一人の教育的ニーズに応じた園内体制の充実】【幼稚園を地域の乳幼児支援センターとする子育て支援機能の強化】

学校教育環境の整備

地域社会と一体となり、協力を得ながら安心・安全な学校づくりを推進します。また、情報化社会の進展を活かし教育環境の整備を進めます。

〈施策〉【情報活用能力の育成をめざした情報機器の充実や読書活動を促す環境整備】【安心・安全な学校づくり】

「教育のまち 福知山」の推進

知育・徳育・体育の教育を進めるためには、家庭・地域・学校が連携するシステムの構築が必要であり、そのため市民総がかりの教育と開かれた学校、開かれた教育委員会を目指します。

〈施策〉【市民総がかりの教育の推進】【開かれた教育委員会の推進】【(仮称)教育振興センターの設立】【開かれた学校】

学校の再編

複式学級の設置が見込まれる学校を検討対象校として、中学校区内を基本に、統廃合の手法により複式学級の解消を目指します。

〈推進〉【保護者や地域住民の意向を尊重し、理解と協力を得て進めます。】

7 学校再編に関するQ&A

Q. 小規模校のほうがきめ細かい指導ができるので、適正規模の学校よりむしろ良いと思いますが。

A. 小規模校は、一人一人にきめ細かな指導を行いやすいことや学校行事などにおいては個別の活動機会が増えるといったメリットがあります。また、異学年間の縦の交流が生まれやすく、家庭的なふれあいが深まるなどの良い面が種々あります。

一方で、小中学校は義務教育の施設であり、学校教育の目標と役割を考えると、児童・生徒が少なすぎることには課題があります。学校教育は大きくは二つの場面で構成されています。一つは教員が児童生徒をその発達段階に応じて「教える」場面であり、二つは児童生徒がお互いに「学び合い、育ち合う」場面です。この両方が重要であり、そのためには一定の集団が必要となります。児童生徒が他の姿を見ながら自発的に学び、育つとともに、教員の指導によって活発な論議を通じて多様な考え方や見方にふれ、「なるほど、そう考えるのか」、「そんな考え方があったのか」と合点したり、「私はこう考える」「僕はこんな方法でやってみる」などと多様な考えや方法で試してみたりすることが大切です。これからの時代を生きる子どもたちには特に必要です。少ない人数では、こうした教育活動が沈滞することになります。

市立学校教育改革推進プログラムは、本市の実情を考慮することで、複式学級の解消を基本方針としたものであり、児童生徒を集中させ大きな学校をつくるというものではありません。

Q. 地域づくりなど子どもの人数を増やす方策が先に必要で、市行政全体で取り組むべきであると考えますが。

A. 地域づくりは、これまでも総合計画を立て、下水道や農業基盤の整備や市道改良などを進めてきたところでありますが、効果はあるものの、児童数や生徒数が増加するまでには至っていません。こういった地域づくりは、多くの時間と予算をとまうことなので、教育委員会としては、まずは教育環境の整備を優先して進めたいと考えています。地域づくりはどのようにするのかといった課題は、適正規模・適正配置への理解と協力を得たうえで、地域住民の皆さまと論議することが望ましいと考えており、論議の中で市長部局と連携を進めます。

Q. 学校が統合すると遠距離の通学になる。通学支援はありますか。

A. 統合によって通学が遠距離になった場合は、児童生徒の負担や公共交通機関のなどの状況を考慮したうえで、スクールバスの運行などの通学支援を図ります。

Q. 学校の統廃合はいつ実施されるのですか。

A. 市立学校教育改革推進プログラムでは、明確にどの学校をいつまでに統廃合をするとは設定していません。基本的な考え方を「学校の統廃合は、保護者や地域住民の理解と協力を得て進めます。」としていますので、保護者や地域住民の意向を十分に尊重して進めることとなります。地域住民の方々には、「子どもたちの教育環境をどうすることが良いのか」を地域ぐるみで考える取組をお願いしたいと思っています。

平成 23 年度

—お問い合わせ—

福知山市教育委員会 教育総務課

〒620-8501 福知山市字内記13番地の1（内記3丁目）

TEL 0773-24-7061 FAX 0773-24-4880